



### 地這いキュウリ

平成19年 7月12日  
神奈川県農業共済組合

病害虫や暑さに強く作りやすいキュウリ

露地キュウリも梅雨が終わる頃になると草勢が急に勢いが衰えて、ウドンコ病も多くなり、収穫が終わりとなってしまいます。

このころから手間のかからない直まきで、暑さや病気に強い地這い（余蒔き）キュウリを栽培してみませんか。地這い栽培とは支柱をすることなく、ツルを地面に這わせることで高温や乾燥の影響を受けにくくする方法です。

春のキュウリと比べ、果実は濃緑で果皮、果肉とも柔らかいキュウリです。作りやすく家庭菜園に適しています。

#### 1. 栽培管理

タネをまく時期は6月から8月です。条間200cm、株間50cmで直まきをします。タネは1カ所に5～6粒をまき、本葉1～2枚の頃に間引いて2本を残し、本葉4～5枚で1本にします。その後、芯をつまみ3本の子つるを残します。子つるが伸びてきたら均等にツルを配置します。株の周りにはワラを敷くか、ビニールマルチをしておきます。

収穫はタネをまいてから45日前後に始まり、うまくいけば10月まで収穫ができます。収量は春のキュウリに比べると約3分の1です。ただ風に弱いのが欠点で台風等の強風で被害を受けやすく被害がひどい時はあきらめるしかありません。

#### 2. 品種

青長系地這、霜知らず地這、ときわ地這

#### 3. 肥料

前の作に堆肥や化成肥料が施してあれば肥料が残っているので、元肥は必要がなく、ツルが伸びてきたら20日毎に化成肥料を株の周りにまいて下さい。

#### 4. 病害虫防除

病害虫には強い品種ですがアブラムシやベト病等が広がらないうちに早めの薬剤散布が大切です。